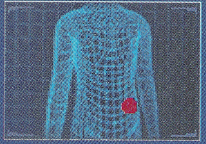
STORY 6-7



## 手術No36
# 原罪・六

**患者** ツミビト6

**TIME LIMIT** 05:00:00

パラスケヴィ駆逐を行なう。手術No28（→P48）時と術法は変わらない。摘出できる最小単位16分の1になるまで切り刻み、心臓に達するまえに摘出をしていく。一度成功しているはずの手術。同じように進めていけば手術は必ず成功する。

### 1 裂傷の縫合

すべての裂傷を縫合するとパラスケヴィが出現する。

### 2 レーザーで尻尾を照射し動きを止める

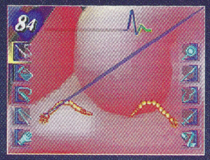
この手術でもパラケスヴィは小腸から移動を開始し、胃、肝臓と体内を上り心臓まで移動する。心臓に達してしまうと、16分の1になったパラスケヴィ1体の動きを止め、摘出する程度の時間しかない。肝臓が処置できる限界と考え手術を進めていこう。

### 3 メスでパラスケヴィを切断

パラスケヴィの動きをレーザーで止めると、切断可能な状態になるので、摘出できる最小単位、16分の1の状態まで切断していこう。なお、切断されたパラスケヴィは裂傷を作りながら画面下へと降りていく。回復剤の投与でバイタルを維持できるのであれば、裂傷の縫合は術野にパラスケヴィがいなくなり、つぎの臓器へ移動するまえに行なうといい。

### 4 ピンセットでパラスケヴィを摘出

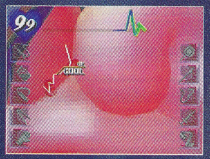
摘出の際もレーザーで動きを止めてから行なおう。




2
パラスケヴィが動きだす直前、体を震わせている最中にレーザーを当てれば、継続して動きを止められる。




3a
最初に切断した残りの2分の1はつぎへ逃し、術野を動き回るパラスケヴィの数を減らしておこう。



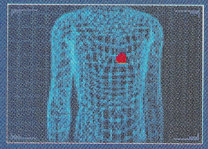

3b
術野からパラスケヴィが消えたら、裂傷の縫合後つぎの臓器への移動となる。移動のまえに回復を。




4
16分の1になったら動きを止め、すぐに摘出。少しでも動きはじめてしまうと摘出できない。



STORY 6-8



## 手術No37
# 原罪・七

**患者** ツミビト7

**TIME LIMIT** 10:00:00

サヴァトの駆逐を行なう。手術No30（→P50）で駆逐したサヴァトと駆逐手段は変わらない。ただし、糸の耐久度や、糸が赤く染まる頻度が高くなり、発生するギルス、小サヴァトの数も増えている。レーザーとメスの持ち替えをいかに速やかに行なえるかが手術成功の決め手だ。

### 1 メスで糸を切断

糸1本の切断にメス1本を消費するのは前回と同様。補充までの時間は、2の小サヴァト焼却の準備をしたり、バイタルの回復を行なおう。メスが補充されたら、すぐに持ち替え、糸の切断をしていくこと。巣を4回破壊したら3以降の第二段階へと進む。

### 2 レーザーで小サヴァトを焼却

サヴァトは糸を生成する際、小サヴァトを生む。同時に生まれた小サヴァトが5体以上いると合体し、中サヴァトを発生させてしまう。メスが補充されるではつねにレーザーを持ち、小サヴァトが生まれたら即焼却すること。糸が赤くない限り、糸切りよりも小サヴァト優先で焼却していこう。

### 3 レーザーでサヴァトを照射

巣が完全に消滅したら、サヴァトの防護コートの中和に入る。レーザーを照射するとサヴァトは1本線か3本線の裂傷を作り、1本線の裂傷からは必ず小サヴァトが発生。サヴァト自体に照射しなければ、裂傷の発生確率はかなり低くなるので、小サヴァトが発生したらサヴァトへの照射を止めよう。小サヴァトの焼却を優先し、裂傷の縫合、回復剤の投与を行なうといい。

### 4 メスでサヴァトを刺す

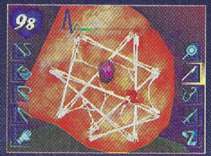
防護コートの剥がれたサヴァトをメスで一刺し。再び防護コートをまとうので、3の処置を続けてメスで刺そう。3、4を4回繰り返したら5の処置へ入る。

### 5 注射器で特効薬を投与

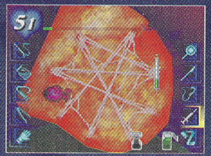
### 6 超執刀を発動させる

手術パレットの手の部分が☆になったままなので、イベントの超執刀発動が終わったら、続けて超執刀を発動させよう。

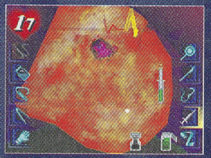
### 7 注射器で特効薬を注射



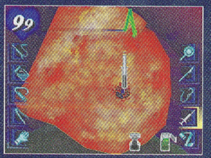

1a
糸の耐久度が上がり、切断に時間がかかる。手術No30と同じタイミングでは進めないことに注意。




1b
巣が完全な状態であれば糸は生成されないため、小サヴァトは発生しない。回復のチャンスだ。




3
レーザーを照射しなければ裂傷発生確率は下がる。縫合後、回復してからレーザーを当てよう。




5
注射器を取ると、回復剤の横にでる黒い薬が特効薬。3回メスで刺したらこれをサヴァトに注射しよう。




6
イベントが発生してこの写真の状態になったら、すかさず自分の手で超執刀を発動させること。